

鳥取県福祉研究学会第8回研究発表会 発表要旨等一覧

口述発表

No.	分野	分野No.	分科会場	発表時間	発表テーマ	発表要旨	研究代表者氏名	研究代表者所属機関・団体	共同研究者（所属省略）
1	高齢者福祉 (施設系)	1	ホール	10:30～10:50	嚥下体操・カラオケ・笑いが持つ嚥下時間間隔の評価（第一報） ～介護老人保健施設入所者を対象に～	高齢者が、いつでも簡便に嚥下機能訓練を行えることを目的に、従来より行われている嚥下体操、「遊び・楽しみ」をとり入れたカラオケ、健康促進の1つと言われている笑いとの効果について、開発した嚥下回数自動検出システムを用いて、それぞれの実施前・後の嚥下時間間隔の評価を行った。	シジムラ ハジメ 辻村 肇	鳥取市医療看護専門学校 (教員)	松村 雅史
2	高齢者福祉 (施設系)	2	ホール	10:50～11:10	快適な排便を目指して ～排便サポートへの取り組み～	排便における利用者の負担を軽減させる為、他職種と連携して取り組んだ事例。	モリタ ヨウコ 森田 要子	社福) あすなる会 高草あすなる	鈴木 雄一
3	高齢者福祉 (施設系)	3	ホール	11:10～11:30	前頭側頭型認知症のケア ～Y氏の事例を通して～	アルツハイマー型認知症の診断を受け入所されたY氏が、再受診の結果、前頭側頭型認知症であると診断された。職員の対応も変えていかなければならないと感じ、前頭側頭型のケアを学び、アセスメントシートを使用してY氏を理解し、職員皆で考え取り組んだ結果、効果がみられた。	シラカタ サヤカ 白方 彩	社福) 福生会 三朝温泉 三喜苑	指定介護施設課 職員一同
4	高齢者福祉 (施設系)	4	ホール	11:30～11:50	腰痛予防「これだけ体操」の定着 ～腰痛対策委員会1年6ヵ月の活動報告～	当苑では、松平浩氏に腰痛予防対策の指導を受けて腰痛対策委員会を立ち上げ、全職員を対象に腰痛に関するアンケート調査を1ヵ月に1回実施した。非特異的腰痛者予防の改善と自己管理を目的として「これだけ体操」の定着に取り組んだ。腰痛予防対策の基礎作りを行った1年6ヵ月の活動と現状分析の結果を報告する。	サノ カズヨ 佐野 和代	介護老人保健施設 いなば幸朋苑	中野 千香子 長谷川 陽子 林 竜司 奥田 正彦 安住 友世
5	高齢者福祉 (施設系)	5	ホール	11:50～12:10	事故ゼロを目指して ～事故対策委員会の取り組み～	事故件数を減らすための仕組み作り ①リスクの見える化 ②PDCAサイクルの構築 を行った成果を報告します。	フクダ アンリ 福田 杏里	社福) みのり福祉会 倉吉スターロイヤル	田中 恵
6	高齢者福祉 (施設系)	6	ホール	13:00～13:20	当施設における福祉用具普及の過程	当施設において福祉用具導入の過程から普及までの流れについて報告します。	トクダ ヒサコ 徳田 尚子	社福) みのり福祉会 倉吉スターロイヤル	前田 幸恵子
7	高齢者福祉 (施設系)	7	ホール	13:20～13:40	OHスケール導入の成果～褥瘡予防の取り組み～	OHスケールを導入し、褥瘡発生リスクを数値化し身体状況にあったマットレスの選定基準を設けることを基本とし、当施設では更に危険因子について同じ価値基準でケアにあたるツールとして活用した成果を報告します。	ヤマサキ ジュン 山崎 純	社福) みのり福祉会 倉吉スターロイヤル	中島 幸子
8	高齢者福祉 (施設系)	8	中研修室A B	10:30～10:50	何でもチャレンジせんと	58歳で多系統萎縮症という難病を発症し、施設生活をよぎなくされた利用者K氏。 K氏に元気になってほしいという思いから、多職種（介護士・看護師・栄養士・相談員）の連携による働きかけと温かな見守りが、心の支えになると考え、じっくりと話を聞き、精神状態に配慮し、心的状況を明らかにするなかで、K氏が前向きな気持ちで生活を送れることを目的とし様々な働きかけを行った事例を発表します。	タムラ タカヤ 田村 拓也	社福) あすなる会 わかさ・あすなる	えびすグループ
9	高齢者福祉 (施設系)	9	中研修室A B	10:50～11:10	共通の話題を用いたグループワークにおける認知症高齢者同士の交流を検証	仲間意識・連帯感に繋がるような患者同士の交流がもてるようにならないかを目的とし、以前より病棟で使用している生活歴チェックシートより共通する項目を決め、週3回のグループワークを行った結果を報告します。	カゴハラ ユカ 椋原 由佳	ウエルフェア北園渡辺病院	水田 裕美 植田 蓮之
10	高齢者福祉 (施設系)	10	中研修室A B	11:10～11:30	すてきなランチタイム ～思い出に残る食事をめざして～	食事を心から楽しんでいただき、生活の質を向上させるための取り組み。	カゲヤマ ヤスエ 影山 康江	社福) みのり福祉会 倉吉スターガーデン	入船 弘美

No.	分野	分野No.	分科会場	発表時間	発表テーマ	発表要旨	研究代表者氏名	研究代表者所属機関・団体	共同研究者（所属省略）
11	高齢者福祉 (施設系)	11	中研修室A B	11:30～11:50	「心のかぜ」に寄り添って	A氏の病気について理解し、その時々の状態に合わせチーム間だけではなく、フロア全体で働きかけ、統一したケアを行うことで症状の緩和を図ることを目的とした取組内容。	ヤマモト マナミ 山元 真奈美	社福) あすなる会 河原あすなる	米村 陵
12	高齢者福祉 (施設系)	12	中研修室A B	11:50～12:10	母が生きていた年までは頑張ろうと思う ～将来につながる楽しみを引き出す介護～	A氏はトイレ排泄、移動、移乗、食事等を見守りもなく、一人で行っている。他者との交流も少なく、長男との面会を楽しみにしていた。ちぎり絵の作成を通し、長男とのつながりを感じ楽しく穏やかに過ごせるように関わった。事例をまとめることで、何気ない喜びや小さな希望はその人の人生の中から生まれてくるものだと分かった。	ヤナギハラ ヨシコ 柳原 良子	YMCA米子医療福祉専門学校	藤原 紀子
13	高齢者福祉 (施設系)	13	中研修室A B	13:00～13:20	痛みに対する援助でわかったこと ～B氏にとっての話しやすい環境とは～	B氏は食事・入浴・排泄の時に車いすに座る以外は居室で臥床していることが多い。実習中、B氏の体をさすってB氏に肩の痛みがあることが分かった。そこで痛みを和らげるために手浴と温湿布を行った。痛みの緩和や居心地の良い環境、触れられる安心感で、普段「はい」「いいえ」で答えることの多いB氏の会話に変化が起ることが分かった。	オカサト リサ 岡本 友里恵	YMCA米子医療福祉専門学校	岡 美奈子
14	高齢者福祉 (在宅系)	1	第1小研修室	10:30～10:50	お一人暮らしをご安全に ～セルフネグレクトへのアプローチ～	セルフネグレクトとは自己放任を意味し、生活を維持する為の意欲や能力を失う状態を示す。特に高齢者の単独世帯は孤独死につながる危険がある。セルフネグレクトチェック表を用いてアセスメントを行い、服薬・食事摂取にチェックの入った利用者2名について安心、安全な生活を支援できるよう取り組んだ事例を報告する。	アキラシ ナツエ 新 奈津枝	社福) あすなる会 白兔あすなるデイサービス センター	中原 新
15	高齢者福祉 (在宅系)	2	第1小研修室	10:50～11:10	あなたは「自立支援」をどう捉えていますか ～「自立支援アンケート」を通してケアマネジメントの目標を考える～	「介護支援専門員の資質向上と今後のあり方に関する検討会」で今後の介護支援専門員の資質向上のための方向性が示された。その課題のひとつに「介護保険の理念である『自立支援』の考え方が十分共有されていない」というものがある。「自立支援」は生活の質の向上を図るための目標のひとつになり得るが、例えばターミナル期のケアマネジメントには「自立支援」の目標が設定しにくいなど、すべてのケースに「自立支援」が目標になるとは限らない。しかし、検討会では、そのような場合「目標を何に定めるか」ということは示されていない。そこで、実際に介護やケアマネ業務に従事している人たちへアンケート調査を行い、本当に「自立支援」がすべての利用者に対する目標になり得るか、ほかに目標にでき得るものはないか、などを考察した。	タカ田 ダイソウ 田中 大造	森本外科・脳神経外科医院	
16	高齢者福祉 (在宅系)	3	第1小研修室	11:10～11:30	個別レクリエーションの効果	これまでは集団で行なうレクリエーションが主であり、参加された利用者の満足感や達成感を得られているのか、また利用者の意欲にも偏りがあり、参加されない方への関わりも充分に行われていない事に問題を感じ、少しでも利用者の意欲の向上を引き出すために個別レクリエーションを取り入れる事とした。個別レクリエーションが利用者にとどのような影響を及ぼすのか、また、どのような効果がみられるのかを調査する事とした。	タケベ タカシ 竹部 孝司	社福) 福生会 三朝温泉 三喜苑	長岡 弥生 長谷川 由里子
17	児童福祉	1	第2小研修室	13:00～13:20	遊びから見た子ども理解と保育者の役割	3才児の子どもたちは様々な体験を重ねる中で、友だちとの相互の関わりを持ち、少しずつ共感できる相手を求め、平行遊びから集団的な遊びへと発展させていく。この過程で子どもたちは一緒に活動する楽しさを感じ仲間意識も芽生えさせていくが、深まることによって自己主張のぶつかり合いも増えてくる。こうした発達の特徴をふまえて、遊びを通してみられる子どもたちの様々なぶつかりあいや葛藤をエピソード記録としてとりながら心の内面を捉え、子ども理解を深めると共に仲間関係を築いていく上での保育者の役割について検証していくこととした。	ノダケ アツコ 野嶽 敦子	社福) 鳥取福祉会 わかば保育園	
18	地域福祉	2	第2小研修室	10:30～10:50	コミュニティソーシャルワークの実践 個人と地域を支える社協の取組	個別支援に関わる中で、地域住民と専門職が協働できる体制づくりの形成が必要と考えました。それは住民によるお互いさま活動です。この活動から新たなニーズ発掘、地域の福祉力の向上に広がりました。	タニオカ タカユキ 谷岡 隆幸	社福) 湯梨浜町社会福祉協 議会	

No.	分野	分野 No.	分科会場	発表時間	発表テーマ	発表要旨	研究代表者氏名	研究代表者所属機関・団体	共同研究者（所属省略）
19	その他 社会福祉	1	第2小研修室	10:50～11:10	回復期リハビリテーション病棟における医科歯科連携実践と地域へ拡げる取り組み	回復期リハビリテーション病棟である当院では「口から食べることを目標とし、口腔ケアと口腔リハビリ、歯科との連携、チームアプローチの3本柱を掲げ協働してきた。医科歯科連携の窓口作りを言語聴覚士が担い、口腔ニーズの高まりに併せて歯科衛生士を配属し、嚥下チームの完成に至った。またその取り組みを地域へ拡げるため、歯科医師対象の研修会を開催した。以上を報告する。	イワタ 岩田 ヒサヨシ 久義	社福) こうほうえん 錦海リハビリテーション病院	竹内 茂伸 井後 雅之 足立 融
20	その他 社会福祉	1	第2小研修室	11:10～11:30	21世紀型の福祉事業「互恵互助」社会を目指して	「地域就労支援室」（平成26年4月発足）の取り組みを通して、地域包括ケアの見地から総合支援について論じる。 注) 地域就労支援室（のちに地域総合支援室と改称）	ヤマ 田山 ヤスヒサ 泰久	社福) こうほうえん	

ポスター発表

No.	分野	分野 No.	分科会場	発表時間	発表テーマ	発表要旨	研究代表者氏名	研究代表者所属機関・団体	共同研究者（所属省略）
1	高齢者福祉 (在宅系)	1	/	10:30～14:50	短時間通所リハビリテーションにおける言語訓練の課題と今後の展望	鳥取県東部で言語訓練が出来る通所リハビリテーション事業所は少なく、短時間通所リハビリの提供はにしまち幸朋苑だけである。今回、開設後2年7ヵ月間に言語訓練を行った利用者を分析し、短時間通所リハビリにおける言語訓練の課題と今後の展望について検討したので報告する。	アカミネ 赤峰 タカヒロ 孝宏	通所リハビリテーション にしまち幸朋苑	